

まちのわだい



火災予防を啓発

消防団がパレード

伯耆町消防団が、4月6日に火災予防啓発パレードを行いました。
このパレードは、防火意識の高揚を図ることを目的に実施しているもので、農作業が始まるこの時期に、毎年実施しています。
パレードには、伯耆町消防団と米子消防署出張所の消防団員43名が参加し、町内を3グループに分けて啓発パレードを行いました。
火災は一瞬にして尊い命や貴重な財産を奪います。これから田植えの準備などで火を使うことが多くなる時期です。火の取り扱いには十分注意し、火災予防に努めましょう。



出発前に団長から訓辞を受ける団員



町内をパレードし防火を呼び掛ける

交通死亡事故ゼロを目指して

春の全国交通安全運動

春の全国交通安全運動が4月6日～15日に実施され、各地で交通安全指導などが行われました。これは、新入学児童に対して、基本的な交通ルールとマナーを理解させることや、高齢者の交通事故防止などを目的に日本全国で実施されています。

鳥取県では、「ゆずり合つ ゆとりと笑顔 防ぐ事故」をスローガンに運動を展開。伯耆町内では、児童生徒の通学路などでの街頭見守りや、江府町と合同で街頭広報を行いました。街頭広報では、2町の交通安全協会員や交通安全保護者の会の会員など約50人が参加し、Aコープ溝口店の駐車場に誘導されたドライバーに、リーフレットやガムなどを手渡しました。

運動期間中以外でも安全運転を心がけ、交通死亡事故ゼロを目指しましょう。



駐車場に誘導されたドライバー達



リーフレットなどを手渡し、安全運転を呼び掛ける

歴史あるイベントを楽しむ

溝口春の彼岸市

住民のふれあいの場として親しまれている「溝口春の彼岸市」が3月21日、JR伯耆溝口駅周辺で開かれました。
この彼岸市は、元は農具市として大正時代に始まりましたが、今では出店が並び、ステージイベントなどが開催されるお祭りへと変化しています。
この日も、歩行者天国となった伯耆溝口駅周辺では、タコ焼き屋や綿菓子屋など多くの出店が並んだほか、メイン会場の駅前ロータリーでは、仮設ステージが設けられ、鬼面太鼓振興会の演奏や岸本溝口中学校吹奏楽部合同の演奏などが行われ、周りの観客から大きな拍手が送られました。今年は時折雨が混じる天候でしたが、子どもからお年寄りまで大勢の人が訪れ、歴史あるお祭りを楽しみました。
一方溝口公民館では公民館まつりが行われました。同好会や溝口保育所園児の作品の展示や、伯耆町の特産品販売が行われました。



溝口の町中に並ぶ出店



伯耆溝口駅前ではフラッシュモブダンスを披露

全国に先駆けたエネルギーの地産地消サイクルシステム

紙おむつペレットボイラー落成式

岸本温泉ゆうあいパルで工事が進められていた、使用済み紙おむつペレット専用ボイラーの設置が終わり、4月8日、工事の完成を祝う落成式が行われました。

落成式では主催者のあいさつや来賓祝辞の後、森安町長がボイラーの起動ボタンを押し、使用済み紙おむつ燃料化事業のスタートを祝いました。専用ボイラーは燃料ホッパーに紙おむつペレットを入れ、運転開始ボタンを押せば、ペレットが自動でボイラー内に供給され燃焼が続く設計で、伯耆町清掃センター(福島)で1日に生産されるおおよそ150kgのペレットで、約5時間燃焼する仕組みです。

これによって伯耆町ではCO2の削減だけでなく、使用済み紙おむつを資源ごみとして回収・ペレット化、そして、燃焼燃料として、エネルギーの地産地消サイクルが実現したことになります。



関係者によるテープカット



今回整備された紙おむつペレット専用ボイラー